

MHC200 周年記念 2009MHC 登山講習 槍・穂高連峰縦走登山 報告

8月13日 AM6:30、参加者21名が、松本市安曇支所に集合し、市専用バスに乗り込み出発、岐阜県側槍ヶ岳登山口のある新穂高へ向かう。天候は曇天模様。新穂高ロープウェイ近くで下車。AM8:00 準備を整え、林道を進む。穂高平避難小屋を経て AM10:00 白出沢出合に到着。雨が降り出し、一列縦列となり森林帯の登山道を進む。AM11:30、滝谷出合に到着。見上げれば、雄滝上部は雨に煙り、視界が遮られている。出合から急坂を登り、南岳からの沢を横切り、PM1:10 槍平小屋に到着、泊する。夕方から夜半にかけて、雨本降りとなる。



穂高を望む槍平テント場

14日 AM6:30 槍平小屋を出発。天候は快晴を迎える。森林帯を登り、ダケカンバの林を抜けると次第に低木帯となり、展望が開ける。振り返れば乗鞍岳、焼岳が遠く望まれ、登るにつれ、重量感のある笠ヶ岳が高く、大きく迫ってくる。森林限界からは、登山道脇に高山植物が咲き競い、道行く人の心を慰めてくれる。ヨツバシオガマ、ハクサンフウロ、チングルマ、ミヤマダイコンソウ、等多くの花々が咲いている。

高山植物咲く槍平



飛騨乗越への登り

高度が上がると裏銀座の山々が望まれ、岩礫のジグザグ道を登り続けると槍ヶ岳と大喰岳の鞍部、飛騨乗越に抜け出る。信州側の山々が姿を現し、展望が一段と開ける。稜線の斜面に設営されたテント場を通り、AM10:45 槍ヶ岳山荘に到着。槍ヶ岳の100mの岩峰が、眼前にそそり立っている。荷を置き、早速槍ヶ岳の山頂を目指す。AM11:30 全員槍ヶ岳3180mに登頂する。20分ほど留まり下山を開始する。この日槍ヶ岳山荘に泊する。

笠ヶ岳を望み登る



槍ヶ岳山頂に登頂

午後近くの岩場で、サポート役の4人で遭難時のザイル操作を確認し合う。夕方、太陽が西の空を染めて静かに沈んでいく。夕食後玄関の外に出てみると、夜空に満天の星が輝いていた。南に赤く光る一等星アンタレスを控えるサソリ座、天空に白鳥座、織姫星、彦星を見つける。流れ星が幾筋も瞬時に通り過ぎ、観察者はその度に歓声を上げる。北方にカシオペア、北斗七星を見つけると、それらを頼りに、鈍く光る北極星を探す。

8月15日 AM6:00 槍ヶ岳山荘を出発する。天気は快晴、山々が朝陽に輝いている。槍・穂高縦走を目指し、岩稜線が続く縦走路へ向かう。後方に天を突く槍ヶ岳を望み、岩礫の登山路を登り詰めると、AM6:30 広い頂上を持つ大喰岳 3101mに登頂する。大喰岳からは、信州側に残雪をいただく稜線を歩く。東方に常念岳、蝶ヶ岳の稜線を望む。岩礫帯の岩場を攀じり、鉄ハシゴを登り詰めると、AM7:10 中岳 3084mに登頂する。

大喰岳からの槍ヶ岳



西穂、乗鞍、御岳山を望む

頂上から20分降りた中岳雪渓の水場を通過し、岩礫の登山路を進み振り返ると、円錐形状した槍ヶ岳の姿が美しい。氷河公園へ向かう横尾尾根との分岐を通過して、AM8:15 南岳 3033mに登頂する。眼下に屏風岩の大障壁が望まれ、前穂高岳北尾根が迫ってくる。

南岳小屋でトイレ休憩をして、AM9:15 縦走路最大の難所、大キレットへ降下を開始する。降り始めの岩礫帯を過ぎると、急峻な岩場の降下が続く。岩場のわずかな凹凸にスタンスを確保しながら、手がかりを確実に捉え、慎重に下山する。最下部の長い鉄ハシゴを降り、最低鞍部付近で小休止する。降りてきた大絶壁を、振り返り見上げると、身震いする程だ。

最低鞍部から北穂を望む



難所、飛驒泣きを行く



最低鞍部から岩礫路を登り、いよいよ長谷川ピークから馬の背への登攀にとりかかる。取り付けられたクサリや金具も頼りに、切り立った岩稜線を進む。A 沢のコルで小休止後、岩壁を攀じり、「飛驒泣き」と呼ばれる切り立った岩峰を乗り越える。しばらく急斜面の岩場をジグザグに登り詰めると、PM12:30 北穂高小屋にようやく辿り着く。ここで昼食を摂る。昼食後小屋脇に設けられた岩階段を登り、PM1:00 北穂高岳 3106mに全員登頂する。



チシマギキョウ



チングルマ



涸沢槍先峰に登頂

北穂高岳からは急峻な岩尾根を進む。稜線西側の眼下には、「鳥も通わぬ滝谷」といわれる高度差1000mの大障壁がそそり立っている。しかし、午後になると濃霧が湧いて、視界50m程で何も見えない。最低鞍部からは、落石に注意して岩壁を攀じり、涸沢槍を経て涸沢岳への最後の難関に挑む。

しばらくの登攀の後、岩溝のクサリを頼りに、満杯の力を使って体を迫り上げると、涸沢岳山頂へ続くなだらかな稜線に登り出る。PM3:30 涸沢岳山頂 3110mに全員登頂する。「おめでとう、頑張りましたね！」皆、緊張感が解れたのか、安堵の笑顔を交し合う。PM4:10 登山者で混雑する穂高山荘に到着、泊する。一息ついた頃、屋外では、参加者輪になって陣取り、祝杯の美酒に酔う。

涸沢岳へ登攀



ミヤマダイコンソウ

16日 AM6:00 準備を整え、奥穂高山荘を出発。天気は今日も快晴。朝陽に輝く涸沢岳を背景に、50m程の岩壁を攀じるとなだらかな登りの岩礫帯のジグザグ路を行く。ジャンダルムの大岩峰を間近に望み、さらに稜線を進むと、AM7:00、北ア最高峰奥穂高岳 3190mに全員登頂する。北方に、槍ヶ岳が天を突いて屹立し、前衛に北穂高、涸沢岳が聳え、私達が登って来た全ての峰々が望まれる。

ジャンダルムの威容



奥穂高岳山頂から望む槍ヶ岳

一休みをして、吊尾根の岩稜線を前穂高岳へ向かう。眼下に箱庭のような上高地が展望され、蛇行する梓川沿いに赤い屋根の旅館が建ち並ぶ。AM9:00 紀美子平に到着。軽荷で山頂に向かう。AM9:50 前穂高岳山頂 3090mに、難無く全員登頂する。3000m峰8座目となる山頂に皆感慨もひとしおだ。東方は、雲海が広がり、霞の中に、八ヶ岳、南アルプスの山々が遠く眺望する。

吊尾根を行く



AM11:00 紀美子平から下山開始。いきなりの岩稜の急斜面も、慎重に下降。途中昼食を摂り、腹ごしらえをして、PM1:00 岳沢ヒュッテへ到着。ここで小休止して森林帯の緩やかな下山路を下る。PM3:15 上高地の登山口へ到着。「おめでとう！」登山道から林道に出て、皆ほっと安堵の笑顔で握手を交わす。

バスターミナル付近でクールダウンの体操をして、全員タクシーに乗り込み、PM3:30 上高地を後にする。PM4:00 安曇支所に到着。皆各人の車で帰還する事とし、ここで解散としました。